



松山赤十字病院

日本赤十字社

MATSUYAMA RED CROSS HOSPITAL

SPRING 2016

Cancer News

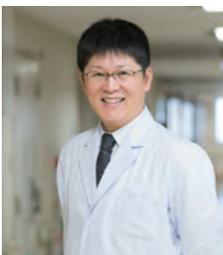
Doctor Interview

肺がん



Doctor Interview

ドクターインタビュー



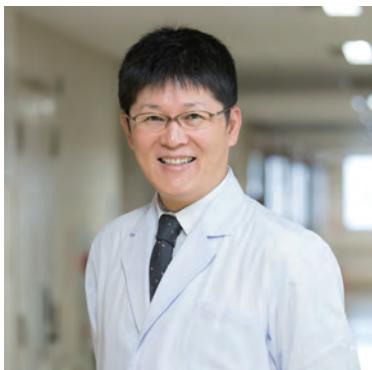
肺がん

『その人にとって
最善の治療を、
チームでサポート』



呼吸器内科部長
兼松 貴則

- Team information がんリハビリテーション
- in Profile 管理栄養士
- mrc Place 歯科口腔外科
- What is・・・? リンパ浮腫ってなに？
がん相談支援センターって
どんなところ？



“その人にとって 最善の治療を、 チームでサポート”

呼吸器内科部長 兼松 貴則

† 抗がん剤の進化

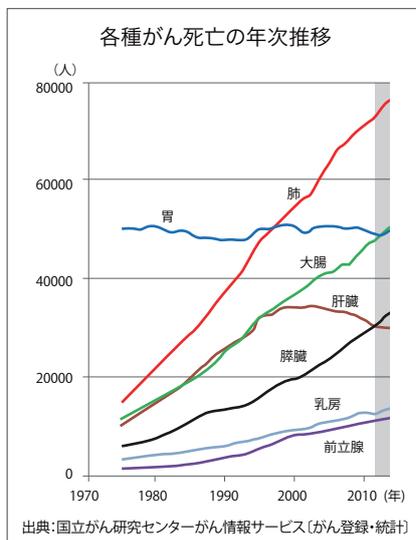
日本人のがんによる死亡数(2013年)において、肺がんは、男性では最多、女性では大腸がんに次いで2番目に多くを占め、男女合計では最多となっています。肺がんは、病変から採取した組織によって腺がん・扁平上皮がん・大細胞がん・小細胞がんの4つに分類されます。治療には手術・放射線・抗がん剤という3本柱があり、がん細胞の種類やがんの広がりによって治療内容や組み合わせを判断します。発見時の約8割は手術が難しい進行期にあり、その場合は放射線治療や抗がん剤治療が中心となります。

ここ20年における抗がん剤の研究・開発には目を見張るものがあります。以前は抗がん剤の投与によって強い吐き気を催し、食事がとれなくなるにもかかわらず、治療が上手くいかない場合が多かったのですが、1995年頃からよい抗がん剤が開発されるとともに、どう組み合わせるとよいかなどの研究が進められました。2000年になるとがん細胞が持っている増殖や転移などに関する特定の分子を狙い撃ちにして、その働きをおさえる分子標的薬が開発されました。肺がんに対する初の分子標的薬であるイレッサ(一般名:ゲフィチニブ)は、よく効く場合とそうでない場合があり、間質性肺炎を引き起こす危険もあって、使用に賛否が分かれた

時期がありました。しかし、その後の研究でがん細胞の遺伝子を調べることによって、イレッサがよく効くEGFR(上皮成長因子受容体)遺伝子変異が陽性の人を特定できるようになりました。さらに、別のがん遺伝子であるALK遺伝子変異を持つ人に効く薬も開発され、分子生物学的研究が治療に結び付いてきたといえます。また、がんの増殖を抑える血管新生阻害薬や葉酸代謝を阻害して増殖を抑える抗がん剤など、様々なタイプの薬が誕生しています。最近では、がんを直接攻撃するのではなく、がんを攻撃する免疫の働きを調節する「免疫チェックポイント阻害薬」が認可され、効果が期待されています。

† チームで最善の治療を追及

当院の肺がん診療の特徴は呼吸器内科・呼吸器外科が同一局内で「呼吸器センター」として対応していることです。呼吸器内科には、4人の専門医と2人のレジデント(2年間の研修期間終了後、専門領域で臨床訓練中の研修医)が在籍しています。病理診断に重要な気管支鏡検査は内科・外科が、一緒に検査を行うだけでなく事前に合同でカンファレンス(会議)を行います。さらに放射線科・病理診断部と合同で、月に一度症例検討会を開催しています。さらに入院患者さんについて、医師・看護師・薬剤師・臨床心理士など多職種で行うカンサーボードを週に1回開催しています。1人ひとりの患者さんに最善の治療を提供できるよう、情報の共有・方針の決定を行い、チームで医療を行う体制をとっています。また終末期の医療にも力を入れています。緩和ケアチームとの連携のもと気持ちも痛みも和らげるケアの提供を目指し、さらにホスピス病棟のある近隣施設との連携を図っています。



Team information

がんリハビリテーション

がんの人にリハビリって必要な?どんなことするの?と思われる人が多いのではないのでしょうか。リハビリというと、骨折等のケガをしたり、脳卒中で麻痺になったりした人がするものというイメージが強いかもしれませんが、現在のリハビリでは手術後に合併症が起らないよう早い時期から動く練習をしたり、内科的な治療で入院が長引くことで体力が弱のを予防したりといった内容も増えています。そのため、近年がん治療にもリハビリが必要と認識され、積極的に関わることがようになってきています。平成27年12月現在、がんリハビリテーションの研修を受けたスタッフは医師:1名、理学療法士:6名、作業療法士:5名、言語聴覚士:1名の計13名です。それぞれのスタッフが運動機能だけでなく、日常生活や食事・言語面で問題がある方に対応出来るようになっております。

がん治療においては多職種協働によるチーム医療が重要視されています。その一端を担う一員として、我々リハビリスタッフも全力でサポートさせていただきます。



in Profile

管理栄養士



がんが不治の病だった時代からがんと共存する時代になり、がん医療において栄養や食事の重要性について目が向けられるようになりました。患者さんは「手術前や治療中の日常生活に耐えうる体力を維持するために栄養状態を良くしておきたい」「食べなければいけないと思うのに後遺症や副作用で食べられない」「がんと闘いながら他の病気とも上手く付き合っていかなければならない」またご家族は「食欲のない人にどんな食事を作ればいいのか分からない」など食に関する悩みは様々です。本来なら楽しみであるはずの食事が苦痛でしかない時期もあります。ですが、少しでも食べられれば頑張ろうという気持ちも湧いてきます。食事は栄養補給の手段だけでなく闘病意欲にも繋がります。食事に困った事があれば私達にご相談下さい。身体面・精神面・ライフスタイルを考慮し、食事形態や栄養補助食品の利用などその方にあったものを一緒に考えていきます。

がん治療の基本は手術・化学療法・放射線療法ですが、私達管理栄養士は食「栄養」の面からがん患者さんを支えていきたいと思っています。

mrc Place

歯科口腔外科

「がん治療と口腔ケア」

がんの標準的治療は手術、放射線治療、化学療法(抗癌剤治療)ですが、手術前に口腔ケアを行うと手術後の合併症を減らしたり、全身麻酔の際に起こる歯の損傷などのトラブルを軽減できるということがわかってきました。また、顔や首への放射線治療のほぼ100%、抗癌剤治療の40%程度に口内炎やカンジダ症など口のトラブルが副作用として現れるとされています。口の中が不潔だと口内炎が悪化し、治療を続けるのも困難になることで治療成績が下がることもあります。これらの治療を受ける患者さんに口腔ケアを行うことで口内炎などの症状を緩和したり、口のトラブルを防ぐことができると言われています。

歯科口腔外科では、がん患者さんの治療にあたって少しでも手術中の口腔内トラブルや術後の合併症を減らすこと、化学療法や放射線治療を受けられる患者さんに対しては、口腔の副作用を減らして治療中は安楽に過ごしていただくこと、また、副作用を減らすことで治療を最後まで受けていただいて治療成績を上げること、などを目標として積極的にがん治療のサポートを行っています。



リンパ浮腫ってなに？ ～予防と早期発見が鍵です～

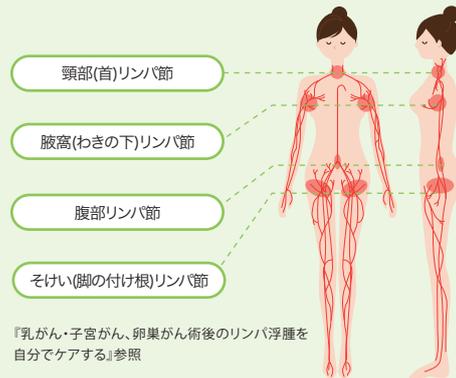
体の中には、動脈と静脈のほかに「リンパ管」と呼ばれる管があります。リンパ管は、全身の皮膚のすぐ下に網目状に張り巡らされていて、このリンパ管の中には「リンパ液」という液体が流れています。リンパ液は、タンパクや白血球などを運びます。首の付け根やわきの下、脚の付け根などには、「リンパ節」という組織があり、感染やがんが全身へ広がることを抑える役割を持っています。

リンパ浮腫とは、病気やがんの手術などによってリンパ液の流れが滞り、腕や脚、その他の部分に浮腫（むくみ）があらわれるものです。乳がんや婦人科がん（子宮がん・卵巣がん）、前立腺がんの手術でリンパ節を切除した後起こりやすく、放射線治療の後にもみられることがあります。発症時期には個人差があり、手術直後から発症することもある、10年以上経過してから発症することもあります。リンパ浮腫は、がんの治療を受けた全ての患者さんが発症するわけではありませんが、一度発症すると治りにくいという特徴があります。重症化すると生活に支障をきたすことがありますので、発症後は早期に治療を始め、悪化を防ぐことが重要です。当院では、手術でリンパ節を

切除した患者さんを対象にリンパ浮腫予防のための日常生活指導を行っており、発症した方にはリンパ浮腫外来にてケアを提供しています。



リンパ管のネットワークとおもなリンパ節



がん相談支援センターってどんなところ？

がんと告げられたとき、治療や療養生活の中で「誰に相談したらいいかわからない」と思うことはありませんか？

当院のがん相談支援センターでは、がん患者さんやご家族の心配事や気がかりの相談をお受けし、一緒に解決できるようなお手伝いをさせていただきます。

Q.誰が相談にのってくれるの？

A.がん相談の研修を受けた専任の看護師・医療ソーシャルワーカー・臨床心理士がお伺いします。

Q.どこに連絡すればいいの？

A.がん相談支援センターに連絡し、予約をお取りください。落ち着いた個室でお伺いします。予約外の相談も可能ですが、予約の方を優先させていただきます。

Q.相談費用はいくらですか？

A.無料です。



より専門的ながん相談をご希望の方には・・・「がん看護外来」へ

がん看護分野の専門的な資格や知識をもった専門看護師、認定看護師が、病気による症状や治療、副作用、療養生活に関連した悩みに対して、主治医との連携を図りながら一人一人にあったきめ細やかな支援をしていきます。
(ご希望の方は、がん相談支援センターにお尋ね下さい)



<がん相談支援センター> TEL: 089-926-9516 受付: 8:30~17:10(平日のみ)



<http://www.matsuyama.jrc.or.jp/cancer/>



日本赤十字社

松山赤十字病院 がん診療推進室
〒790-8524 愛媛県松山市文京町1番地
TEL: 089-903-0968 FAX: 089-926-9614

